

2024年1月22日

2023年度聖路加国際大学大学院看護学研究科
課題研究

周産期医療における
DVスクリーニングの実装に向けた
促進要因・阻害要因の分析
Analysis of Facilitating and Inhibiting Factors
in the Implementation of Domestic Violence
Screening in Perinatal Care

22MW014
日比綾香

要旨

【目的】周産期医療においてDVスクリーニングと支援が推奨されているが、普及していない現状がある。本研究は実装研究のための統合フレームワーク(Consolidated Framework for Implementation Research : CFIR)を用いて、DVスクリーニングの実装を促進する要因・阻害する要因の探索を行うことを目的とした。

【方法】研究方法は既存の研究を網羅的に分析するスコーピングレビューである。文献検索は医学中央雑誌 Web 版、PubMed、CINAHL を用い、検索期間は2010年から2023年10月とした。DVスクリーニングと支援の導入・継続における促進要因・阻害要因について結果に記述がある文献を採用した。分析方法は、文献から促進要因・阻害要因をテキストとして抽出してコーディングを行い、コードをCFIRの枠組みの領域、構成概念に分類した。各構成概念のコードからカテゴリー化を行った。

【結果】採択されたのは50文献であった。CFIRのイノベーションの特性では【G.イノベーションのデザイン】の《支援者の断片的な関わりにより、支援者との信頼関係が希薄である》ことが阻害要因であると明らかになった。外的セッティングでは【D.パートナーシップとつながり】で《専門機関と連携して女性を支援する》が促進要因であり、【B.現場の反応】では《暴力や女性を軽視する文化》や《家庭内の事情を外部に明かすことをタブーとする文化》が阻害要因となっていた。内的セッティングでは【J.利用可能な資源】で《必要な人材が不足》し、《イノベーションのために必要な時間が不足》していた。《医療者が使用しやすい効果的な紹介リソースやガイドラインが不足している》が明らかになり、《効果的な訓練や教育を実施する》こと、《臨床で活用できる教育ツールの存在を知ってもらう》ことが促進要因となっていた。個人特性では【B.能力/スキル】の知識不足により《DV支援を行う自信が欠如》していた。【D.動機付け】では役割意識の低さが《イノベーションする意欲がない》ことに起因していることが明らかとなった。

【結論】CFIRの4領域、29構成概念において促進要因・阻害要因が抽出された。主に、医療者と女性の関係性の希薄さ、連携の脆弱さが阻害要因となっており、チーム内での相談体制の強化の必要性が明らかになった。また、トレーニングや研修の不足から知識不足やDV支援を行う実践能力の不足、自信不足が阻害要因となっていた。本研究で抽出されなかったCFIRの構成概念の促進・阻害要因を明らかにすること、実装のターゲットとなるコミュニティでの阻害要因を明らかにすることが今後の課題である。